令和4年度「東京都環境影響評価審議会」第二部会（第4回）議事録

■日時 令和4年11月18日（金）午後3時30分～午後4時24分

■場所 WEBによるオンライン会議

■出席委員

柳会長、宮越第二部会長、池邊委員、池本委員、日下委員、廣江委員、水本委員、宗方委員、保高委員、渡邊委員

■議事内容

1 環境影響評価書案に係る質疑及び審議

一般国道20号日野バイパス（延伸）Ⅱ期建設事業【2回目】

⇒ 前回到引き続き、選定した項目について、質疑及び審議を行った。

令和4年度「東京都環境影響評価審議会」

第二部会（第4回）

速 記 録

令和4年11月18日（金）

Webによるオンライン会議

(午後 3 時 30 分開会)

○下間アセスメント担当課長 それでは、定刻になりましたので、東京都環境影響評価審議会第二部会を始めさせていただきます。

本日は御出席をいただきありがとうございます。

それでは、本日の委員の出席状況について、事務局から御報告申し上げます。現在、委員 12 名のうち、現時点で 8 名¹の御出席をいただいております、定足数を満たしております。

これより、令和 4 年度第 4 回第二部会の開催をお願いいたします。なお、本日、傍聴の申し出がございます。

それでは、部会長、よろしくをお願いいたします。

○宮越部会長 では、会議に入ります前に、本日は傍聴を希望する方がおられます。

なお、本会議の傍聴は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Web 上での傍聴のみとなっております。

それでは、事務局は傍聴人の方を入室させてください。

(傍聴人入室)

○下間アセスメント担当課長 傍聴人、入室されました。

○宮越部会長 では、ただいまから第二部会を開催いたします。

本日の会議は、次第にありますように、「一般国道 20 号日野バイパス(延伸)Ⅱ期建設事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議(2 回目)及びその他の事項となります。

○宮越部会長 それでは、次第 1 の「一般国道 20 号日野バイパス(延伸)Ⅱ期建設事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議を行います。

まず、事業者の方に御出席いただきます。事業者の方は入室してください。

(事業者入室)

○宮越部会長 よろしいですか。

では、まず本事業の審議につきましては、4 回の審議を予定しており、本日は 2 回目となります。事業者の方に御出席いただくのは、今回を含めてあと 2 回予定しています。今回は 2 回目の審議となりますので、委員の皆さまには、前回の御議論を踏まえて、御担当いただいている評価項目について、十分に議論を深めていただきたいと思いますと考えております。

¹ この後、委員 2 名が途中出席し、10 名の出席となった。

本日の進め方ですが、最初に事務局から前回の審議内容を御説明していただきます。その説明の後に、事業者に対する質疑を行います。

では、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○下間アセスメント担当課長 それでは、事務局から説明させていただきます。

まず、資料1を御覧ください。

資料1は、前回の部会における審議の内容を整理したものとなります。

委員からの指摘、質問事項等を環境影響評価項目ごとに、騒音・振動、土壌汚染、地盤 水循環 共通、史跡・文化財、廃棄物、その他の順序で取りまとめており、合計13件、環境影響評価項目以外のその他が4件となりました。

指摘、質問事項等は取扱い欄に前回の日付で10/24(10月24日)と記載しています。前回の指摘等の項目については、3ページから4ページ、騒音・振動、番号1、2、3、4。5ページ、土壌汚染、番号1。5ページから6ページ、地盤 水循環 共通、番号1、2、3、4。7ページから8ページ、史跡・文化財、番号1、2。8ページから9ページ、廃棄物、番号1、2。9ページから11ページ、その他となります。

要約して内容を御説明いたします。

騒音・振動に関しましては、番号1として、工事の予定を記載することについて質疑が行われました。これについては後ほど事業者から回答補足がございます。

騒音・振動の番号2として、建設工事の予測結果に対し、音源位置の記載について質疑が行われました。これについても後ほど事業者から回答補足がございます。

騒音・振動の番号3として、建設工事用の遮音壁について、パネルでなく防音シートを使うことについて、質疑が行われました。

騒音・振動の番号4として、事業者が行った住民説明会について開催状況等の質問があり、事業者の回答に対し助言がございました。

土壌汚染に関しては、汚染のおそれありという給油所に関して質疑が行われました。

地盤 水循環 共通に関しては、番号1として、地質断面図と地下水の観測結果、水位の観測結果と地下構造物の深度の関係について質疑が行われました。

地盤 水循環 共通の番号2として、土留壁の設置に関し、深度は地下構造物と同じかという質問に対し、事業者から回答がありましたが、それに対して助言がございました。今回この助言に対し、後ほど事業者から回答補足がございます。

地盤 水循環 共通の番号3として、構造物が接する右岸側での地質について、地下水位

を示していただいているが、左岸側では地下の掘削や揚水等に関して質疑が行われました。

地盤 水循環 共通の番号4として、地盤沈下の調査に関して地盤の高さの事前把握について質疑が行われました。

史跡・文化財に関しては、番号1として、「平山遺跡」該当地についての調査及び認識について助言があり、その土地の改変について質疑が行われました。

史跡・文化財の番号2として、日野市長意見の尊重、また、今後遺跡が発掘された場合の前向きな調査や公開について助言及び質疑がございました。

廃棄物に関しては、番号1として、建設廃棄物と建設発生土以外の金属や、他の廃棄物の発生について質疑が行われました。

廃棄物の番号2として、廃棄物の発生抑制に関する具体的な計画等について質疑が行われました。

その他（温室効果ガス、事後調査、事業計画）について、それぞれ指摘、質問があり、それぞれ回答が事業者からありました。

なお、温室効果ガスと、事業計画の番号2については、それぞれ後ほど事業者から回答補足がございました。

資料1の説明は以上です。よろしく申し上げます。

○宮越部会長 ありがとうございます。

では、今事務局から御説明いただきました前回の質疑応答について、委員の皆様から修正等ございましたらお願いいたします。発言される際には、最初にお名前をお願いいたします。

なお、事業内容や評価書案に関する質問については、この後の事業者の方との質疑応答のときをお願いいたします。

委員の皆様、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、前回の質疑応答について、事業者の方からの補足があると伺っております。事業者の方から説明をお願いします。

○事業者 はい、回答補足につきまして御説明いたします。相武国道事務所と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

まず最初に、騒音・振動の1番目です。工事の実施にあたり、休日作業の有無並びに作業する時間帯について、図書への記載を求める意見をいただいております。

これに対し、回答補足として記載していますが、工事は原則として平日の昼間に行います

が、休日作業及び夜間作業が必要な場合においては、関係機関と協議の上、休日作業及び夜間作業を極力少なくするよう、工事計画を検討するとともに、事前に工事実施日や実施時間をお知らせする等の措置を講じる計画であり、その旨を評価書に記載します。

次に、騒音・振動の2番目になります。建設機械の稼働に伴う騒音の予測について、音源位置の図書への記載を求める意見をいただいていたいました。

これに対し、回答補足としまして記載していますが、自動車の走行のように、音源の位置として項目立てはしていないものの、建設機械の稼働に伴う影響の発生源の位置として、ユニットの配置を評価書案に記載しています。なお、ユニットの配置は「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」に基づき設定しております。

次に、地盤 水循環 共通の2番目でございます。土留壁を設置する場合、その深さについて図書への記載を求める意見をいただいております。これに対し回答補足として記載していますが、土留壁の構築にあたっては、当該地域における難透水層の深度を把握した上で、適切な工法及び根入れ長を検討する計画であり、その旨を評価書に記載します。

次に、その他(温室効果ガス)の1番でございます。工事の施工にあたり、技術の進歩に伴ったできるだけ温室効果ガス排出量の少ない工事用車両の使用を求める意見をいただいております。

これに対し回答補足として記載していますが、工事の施行中においては、使用する建設機械は可能な限り低炭素型建設機械を使用するとともに、工事用車両においては低燃費型車両の活用に努めてまいります。

最後に、その他(事業計画)の2番目です。一般国道20号のバイパス事業全体の概要について、図書への記載を求める意見をいただいております。これに対し、回答補足として記載していますが、本事業とともに一般国道20号日野バイパス(延伸)及び八王子南バイパスの3事業が、一体となって整備が進められていることについて、評価書に記載します。

事業者からの回答補足について説明は以上です。よろしく願いいたします。

○宮越部会長 ありがとうございます。

それでは、事業内容や評価書案に関して、事業者の方との質疑応答を行うことといたします。委員の方から御質問や御意見をお願いいたします。いかがでしょうか。

廣江委員、お願いいたします。

○廣江委員 丁寧な説明をありがとうございます。2つ質問があります。

本日の最初の、まとめていただいた質疑応答1点目の回答ですが、基本は昼間に行うが、

休日あるいは夜間に必要な場合においては、行う可能性があるということですが、それに対する評価はどうされるのでしょうか。

それと2つ目、回答補足のところで、ちょっとユニットの配置というのが見つけられなくて申し訳ないのですが、記載場所をちょっと教えていただけないでしょうか。以上2点です。

○事業者 御意見をありがとうございます。

1点目が、騒音・振動の1番の回答で、基本的には平日の昼間なのですが、休日や夜間に行うことについてどのように考えているのかということだと認識しました。

基本的には、作業については、平日昼間にすることにしていきます。ですので、夜間については今のところ想定はないのですが、もしも実施する場合には、きちんと説明責任を果たしていくというところがございます。いつ夜間どのようにやっていくということは、今検討はありませんので、評価の中には今組み込んでいない状況というところがございます。

2点目、建設機械のユニットの配置の記載の場所ですが、評価書案の169ページをご覧くださいいただければと思います。

まず、騒音に係るユニットの配置につきましては、評価書案の169ページにお示しのとおり、1日当たりの施工範囲を面音源になるように配置しております。今お示しの文章の一番下の部分の文章で記載をしております。

また、振動に係るユニットの配置につきましては、次のページ、評価書案170ページにお示ししておりますが、工事の内容を考慮して設定することとしておりまして、ユニットが移動型であり、施工範囲の設定が困難な場合におきましては、建設機械の作業半径や必要最小限の移動スペースを考慮して、予測地点から5m離れた位置にユニットの配置をするということを設定をしております。

回答については以上になります。

○廣江委員 ありがとうございます。

分からない点は、面音源はいいのですが、それがこれを予測したときに壁からどういう距離関係にあるかというのはどこに書いてあるのかというところです。位置関係でわからないと申し上げたのは。

そこがまずわからないと、計算はしているけれども一体どういう音源位置関係に置いたかというのが分からないと、前回も他の委員から確かご指摘があったと思うのですが、事後調査をしたときにこの値に対して、例えば大きかった、小さかった、努力の結果小さくなった、何らかの影響で大きくなったといったときに、一体何が原因でそれが起こったかという、結

局検証にならないというところが大きな問題であったかと思っておりますので、例えば、道路も基本的には線音源的に考えて、断面図に車線中心のどこに音源が置いてあるかというような図が書いてあったりしますので、できるだけ一般の方にも分かりやすいように書いていただきたいというのが、私の意見でした。

それから最初の1点目に戻りますが、やる場合にはやるけれども、今はわからないという御発言ですが、前も申し上げましたが、基本やらないはずのものが夜間に行われますと、昼間と違って、例えば作業の妨害になったりテレビを見たり聞いたりする聴取の妨害になったりするのではなく、睡眠妨害という最も大きな妨害に繋がる可能性もあり、しかも夜間工事騒音を評価する指標は何を用いるのかということが、今全然明らかになっていないので、そこを明確にさせていただきたいというのが1点目です。

もし、今お答えいただけるのでしたら、2つの点についてももう一度御回答をお願いいたします。

○事業者 はい、回答させていただきます。

まず1つ目、夜間の時間帯についてどうするのかという話からですが、こちらにつきましては、申し訳ありません。次回にお答えさせていただきたいと思っております。

基本的には今のところ、先ほども申したとおり、今の計画の中には夜間の工事というのは組み込まれていませんので、そのような形で評価した次第で、基準等々につきましては次回また回答させていただきたいと思っております。

2点目、ユニットの配置につきましては、委員の御意見の中で壁の位置とユニットの位置、それから予測地点の位置、その位置関係が分からないということと認識しております。ですので、そちらにつきましては、模式図を用いまして評価書の中に図示していくことを検討させていただきたいと思っております。

○廣江委員 1点目についてももう一度繰り返し申し上げますが、原則行わないのであれば、やっぱり行わないと書いて、夜間するのであれば、例えば、変更届とかという形にはなるのでしょうか。

ちょっとそこら辺の手続きがよくわからないのですが、そういうときにその騒音・振動というのは夜間について厳しい反応が出るので、非常にそこら辺を心配して申し上げておりますので、やらないのであればきっとやらない、やるのであればやるための評価を行うというふうに、はっきりと態度を示してさせていただきたいということを、最後にコメントさせていただきます。

私からの意見は以上です。ありがとうございます。

○宮越部会長 他の委員の皆様からいかがでしょうか。

池本委員、お願いいたします。

○池本委員 私から前回質問させていただいた、今回の資料で言うと 10 ページ目の所になるのですが、事後調査に関してという欄で整理させていただいていますが、定性的な予測が多いというところで、定性的な予測でなくて、定量的な予測をしないと事後調査のとき等に困るのではないかという趣旨の流れで御説明させていただいたのです。

その趣旨として、今の定性的な予測結果の状態を事後調査で、頑張って現地調査と比較してほしいという趣旨ではなくて、定量的な予測ができるものはもっと定量的な予測をするのがいいのではないかという趣旨のコメントでした。

この間で、その辺りを検討いただけるかなということで、前はそこまで言わないでおいただけですが、今のこの流れですと、質問に対して回答して、解決済みみたいなことで扱われそうだったので、ちょっとコメントさせていただけたらなと思ったのですが、趣旨としては、この評価書になる際に予測方法を変える部分というのを検討されるかというのを、少しお聞きしたいと思います。

○事業者 御意見ありがとうございます。回答させていただきます。

まず、今評価書案に記載をしている調査・予測・評価につきましては、そもそもアセスの基本的事項というところもございますので、事業影響の程度について定量的に把握することをあくまでも基本として考えております。

定量的な把握が困難な場合につきましては、定性的に把握するというところで行っております。把握が難しいというのは、事業の熟度であったりといったところもありますが、大気、騒音等々も含めまして、できる限り定量的にケアしているという認識でございます。

また、予測評価につきましては、東京都環境影響評価条例に基づきまして環境影響評価技術指針、それから、国土交通省が策定した道路環境影響評価の技術手法を参考に、適切に実施しているものと考えております。また、調査にあたりましては、現況及び事業影響を的確に把握するための調査方法を、適切に設定した上で実施をしているところでございます。

以上、回答になります。

○池本委員 ありがとうございます。

例えば、評価書案の 437 ページ、廃棄物の部分なのですが、私は廃棄物担当なので、廃棄物のところで御説明させていただきますが、予測結果、表 8.13.4 になりまして、発生量と表

の中の右の列の実施区域外の搬出量が、どれも同じものが多いと、建設発生量はちょっと違います、というような表となっています。

それで、この再資源化率とか事後調査で見ていくことになるのですが、それについては本文の中で、定性的に東京都建設リサイクル推進計画に定められた再資源化率または有効利用率の目標上回りを努めるという記載になっています。

その数字というのは具体的に明らかにする必要があるのではないかとというのが、答えを言ってしまうとそういうことになっています。

他事例を少し見ていただきまして、その辺り、定量的にやられていますので、その辺は修正していただきたい。他の部分も他事例でやれる部分があれば、同じようにやっていただきたいという趣旨になっております。

○事業者 御意見ありがとうございます。

すみません。対応につきましては次回に回答させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○宮越部会長 では、他の委員の皆様からいかがでしょうか。

では、私から質問させていただこうと思います。

地盤と水循環について前回いろいろ質問させていただきまして、回答いただきありがとうございました。

その中で、土留壁についてですが、先ほど補足の説明で、今回土留壁の構築にあたっては、当該地域における難透水層の深度を把握した上で、適切な工法及び根入れ長を検討する計画であり、評価書に記載すると、補足でご回答いただきました。

これで承知したのですが、今具体的に土留壁の構築する場所というのは、この評価書案の中に書かれていますか。どこからどこまでに設置される予定なのかというのが、評価書案の中に地図として記載されているのかというのを教えていただきたいのですが。

○事業者 はい、回答いたします。

土留壁につきましては、回答にありましたように、今後詳細な調査を行いまして、どのように設置をするかということを検討してまいります。なので、具体的な範囲というのは、申し訳ありませんが、評価書の中には入っていない状況でございます。

○宮越部会長 はい、分かりました。

深さだけでなく範囲についてもこれからということですね。

○事業者 はい、そういうことでございます。

○宮越部会長 平面的な位置もこれからということという理解でよろしいのですね。

はい、分かりました。

例えば、今回、地下水の観測井戸の設置場所を示していただいているわけですが、本来であれば、こういった地下水の観測をどこでやるのかということは、地下躯体部分の場所だけではなくて、土留壁をどこに設置するかということと関係してくると思います。

ですから、土留壁の設置にあたっては、それらとの関係についても考慮の上、評価書に記載をお願いします。

あと、もう1点、地盤について、前回の質問項目の地盤の4番に該当すると思うのですが、地盤の高さについて現地で測量いただいているということで、前回教えていただいたのですが、評価書案の中でそういったことは記載されないものなのでしょうか。

というのは、今回地下水について記載していただいていると思うのですが、現場、地盤で、どんなところでモニタリングしていて、今後、事後調査においてその地盤の変動があったのかなかったのか、というのは報告いただけるのかという点もお伺いしたいのですが。

すみません。補足させていただくと、具体的に教えていただきたいのは、評価書の37ページに、地盤について地下構造物の掘削の評価項目、環境影響要因と環境影響評価との関連性というところに、地盤については地下構造物の掘削工事及び地下構造物の存在は、地盤の変形の範囲及び程度を予測するとなっておりますが、当然、調査の項目もこれに関係しているべきであって、例えば、もちろん今回揚水を予定していますから、地下水は大事だと思うのですが、そもそも地盤について一体どこで観測していて、今後どこで報告いただけるのかということをお示ししていただいたほうがいいと思いました。

それで、その予定があるかというのをお伺いしたいのですが。

○事業者 はい、地盤の高さにつきましては、詳細な測量を今しているところでございます。ですので、当然それに基づいて事後どうなるかということを確認していくと。

具体的にどのように事後調査をしていくかというのは、今まだ計画を立てていない状況です。今後事後調査計画の中にお示ししていきたいと考えております。

○宮越部会長 分かりました。

事後調査の中にもそういう地盤の高さについては入れていただく予定だと思いますので、それだけぜひご検討ください。

水本委員、お願いいたします。

○水本委員 よろしくお願いたします。

前回質問に対して回答いただいておりますが、今ちょうど土留壁のことが出ましたので、こちらについてもちょっと追加でお伺いしたいというか、土留壁のその範囲と深さはまだ決まっていないということでした。

ですので、今後またその元々の計画に加えて、土留壁の部分についても、埋蔵文化財の関連があるということで、もし申請といいますか、教育委員会等への相談のタイミングというのが、土留壁の範囲とか、その工事の計画とずれるようであれば、どちらもきちんと相談いただきたいなど、確認をお願いします。

もう1点あるので、まず1点目の回答からお願いします。

○事業者 道路の計画地の範囲におきましては、一応教育委員会様へ照会とかをさせていただいて、適切に調査等をしていきたいと思っております。

それは計画が大体決まった段階で出させていただきますので、また変更になれば変更になった部分につきましても、しっかりと報告させていただいて、調査の可否についても判断をしていただくようなことを考えているところでございます。

○水本委員 はい、今のところはこれまでの方向性で大丈夫なのだろうとは思っておりますが、前回ちょっと補足といいますか、考えが少しずれていたのが、日野市長が保護についても言及されていたんです。

あくまでも埋蔵文化財を発掘して記録を取るというのは次善の策ということで、本来は保護といいますか、日野市長の価値あるものについては残していただきたいという意見が出ているのですが、そこがむしろ遺跡という観点だけで言えばベストですね。

ですので、次善の策ということで、本当に遺跡にとってだけと言ったらなんですが、そのベストではないところで、何か努力をいただくという形に、今なっているというところが少し考えとしてはずれています。

対応としては通常どおりといいますか、正しいことを言っていたいておりますが、その遺跡にとってのベストというところではないというところは、ちょっと一旦ご理解いただいた上での動きということをお願いしたいと思います。

その上で日野市長の意見があるということで、もう一点その部分はよくお汲み置きいただきたいといいますか、これは日野市長のみがそういったご回答をいただいておりますが、その点はもちろん他の市にも適用されると、私も理解をしております。

その上でのことですが、422ページの予測結果の(5)のところ、前回のところで指摘していればよかったのですが、この1行目から2行目にわたるところで、土地の改変を最小限

に抑えた計画としておりのところで、この最小限というのが広さと深さのどちらでのことなのか、両方なのかのというご質問をさせていただいていたのですが、そのとき、面積といますか広さというご回答をいただいております。

そこは、努力ということで、できるだけ遺跡に触らないような努力をされると理解はしておりますので、こちらはそういった面積なのか深さなのかというところも結構重要ですので、そのあたりも本当はしっかり書いていただきたいと思います。

その上で、その結果として工事の実施による改変は最小限に抑えられるというのは、ちょっと勝手な評価といたしますか、これについては努力をしますよという部分は主張していただいて結構ですが、結果的に最小限というのはちょっとなかなか理解しづらい部分です。

そして、その最後の行の、そういった以上のことから遺跡の記録、郷土の歴史と文化が解明されるということが見込まれるということも、この努力の結果こういうところは大事にしていきたいのですが、この上の部分の結果評価としてはちょっと書き方としては厳しい部分があると思います。

ですので、今日話したことを含めて、少し文章を考えていただきたいと思います。

○事業者 ありがとうございます。少し検討を加えてみたいと思います。

○宮越部会長 他の委員の皆様からいかがでしょうか。

柳会長、お願いします。

○柳会長 はい、先ほど廣江委員から指摘のあった工事中の車両の走行で、夜間の点ですが、これまでのこういった道路工事で、夜間に住宅地で工事をやったという実績はあるのでしょうか。

○事業者 この事業は新たな道路をつくる場所ですので、そんなにはないのですが、例えば既設の道路とどうしても交差する部分とかになりますと、そちらへの影響というのを加味されると、その部分については夜間の工事の対応というのを、交通管理者から求められることもございます。

○柳会長 それは、既設の道路と交差するので、昼間止めてというのは制限があるのでということですね。

今回の橋梁からのこの道路は、周りはほとんど住宅地が立っていないところが多くて、道路をつけた先に右手側にマンションがある。それから他の住居も先の道路にはあるということで、その点は理解しているのですけれども、一応昼間は朝の6時から夜の22時までということですので、夜間ということになると、それ以降の朝方までということ、ほとんどそれは

想定外で通常は住宅地で夜中、朝方まで工事をやっているということは聞いたこともないと思うのですが、もしこの図書には、「夜間やるときには事前に通報して、その時間帯を知らせます」ということは書いてありますが、もしそうであれば、夜間の場合の騒音振動はどうなるのかということ、やはり評価書にちゃんと書いていただかないと、なんとなくエクスキューズだけは書いてあって、「工事施行中の事後調査でやりました」ということになりますと、変更届の出しようがないのですよね。

だから、それは変更届を出していただいてから事後調査をやるのだったら、それは分かりますが、やった後に「もうやっちゃいました」と言って、その影響はどうなっているかというのは、測定していませんということであれば、地元に対する説明というのは、環境影響という観点から見るとちょっと不十分になります。

ですので、その点を先ほど廣江委員が指摘されたことについて、特に御回答がなかったもので、その点もう一度確認的にお答えいただければと思っております。

○事業者 先ほどもありましたとおり、一度持ち帰って少し検討させていただきたいと思えます。

○柳会長 はい、よろしく願いいたします。

○宮越部会長 宗方委員、お願いいたします。

○宗方委員 よろしく願いいたします。

ちょっと前回の審議は欠席になっちゃいましたので、質問できなかつたのですが、評価書案の日影について、ちょっとお伺いしたいと思います。

389 ページ、この橋梁部分の川を渡る前後です。日野市側と八王子側においての日影の断面線を指摘して、描いていただいております。

別途いただいた見解書に、日野市長から日影に対する懸念などが挙げられていて、それに対して「透光型の遮音壁を必要に応じて設置します」というような御対応を書いております。

ただ、この図を見ると、断面1の方が日野市側で、断面2の方が八王子側ですかね。下の断面は日影線の点線の出るところが、おそらくこれは遮音壁のつもりで書かれているということなので、これは透光型に変えるということで、適宜御対応いただくといいことを検討していると思えます。

一方で、上の断面1は、これ遮音壁がないのですよね。私は音の専門家ではございませんので、遮音壁が不要だという御判断ゆえこうなっているのか、必要に応じて設けるという方針

は、遮音壁が必要になったから透光型にするというような手続きにするのか、という風に、この辺の遮音壁の扱いというのがどういうふうになるのか。特に断面1は、戸建て住宅だと思えますし、南面そのものにどんと向いていると思えますので、日照の問題がかなりデリケートだと思えますので、その辺の御配慮なり、音との絡みも含めてどのようにお考えになっているのか、ちょっとコメントいただけますでしょうか。

○事業者 はい、回答いたします。

まず、道路の縦断ですが、高い構造になりますと、当然日影ができますので、そこにも配慮して縦断などを決めているところがございます。

また断面1についても、一応遮音壁が付く場所でありますので、それについても配慮していきたいと考えております。また、断面2が特に遮音壁によって日影が大きく出てしまうという部分もありますので、特にその配慮をするという意味から、透光版を使うという配慮で、日影対策をさせていただきたいと思っております。

○宗方委員 2についてはいいんです。遮音壁を設けることを前提とした上で、これがどれくらい影響するか御検討されてると。断面1は、今遮音壁の設置を想定されていないわけですよ、この表現からすると。

○事業者 図の、今線が引っ張ってありますが、遮音壁が1m程度を今想定しているという状況です。

○宗方委員 ああ、その程度で十分だという前提で、お考えゆえにこれでやっているという理解ですか。

○事業者 はい、おっしゃるとおりです。

○宗方委員 分かりました。その辺が読み取れませんでしたので。ありがとうございます。

○宮越部会長 他の委員の皆様からいかがでしょうか。

私から一点、先ほどの地盤高のモニタリング、その高さについて御質問させていただいたことについて補足させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

244 ページ、地盤に関する予測について、環境保全のための措置等が記載されています。この中で、例えば、工事の施行中に対して予測に反映しなかった措置、「工事の施行に先立ち既存構造物の基礎構造や周囲の地質を確認し」と書いてあるのですが、この中に地盤高という言葉が出てこないと思うのですが、何か地盤高のモニタリングとか、地盤の高さに関する測定といった感じのことは書いていないという理解でよろしいでしょうか。

今限られた時間の中でぱっと気づいて見たので、見落としていたら教えていただきたいで

すが。

○事業者 はい、「事業者として事後調査を行い」という部分は記載をさせていただいておりますが、地盤の高さ等については記載をしていない状況です。

○宮越部会長 そうですね。

調査項目の中で、先ほどの調査の環境影響評価項目の中に「地盤高」という言葉がありますから、やはりこの中にも地盤高という言葉を入れていただいて、周辺の地質を確認いただくということはよいことだと思いますが、この中に地盤の高さというのも、もし可能であれば加えていただけると、より分かりやすくなるのではと思います。

あと1点、今気づいたところで質問させていただきたいのですが。既存の構造物のこの「基礎構造」というのは、具体的にどのようなことを指しているのでしょうか。

○事業者 はい、回答いたします。

周辺の地盤等々に基づいて既存構造物がつくられているということで、周辺の既存構造物といったものを想定しているものでございます。

○宮越部会長 分かりました。この計画地の周辺にある既存構造物の基礎構造ということで。分かりました、ありがとうございます。

他の委員の皆様からいかがでしょうか。

これまで様々な環境影響評価項目について御意見をいただいておりますが、大気汚染について日下委員、いかがですか。もしありましたら御指摘ください。

○日下委員 はい、特に大丈夫です。

○宮越部会長 ありがとうございます。

では、生物・生態系、自然との触れ合い活動の場ご担当の池邊委員はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

では、他の委員の皆様からいかがでしょうか。

では、他に御発言がないようですので、本日の審議は終了したいと思います。事業者の皆様ありがとうございます。事業者の方は退出してください。

(事業者退室)

○宮越部会長 最後に「その他」ですが、何かございますでしょうか。

では、特にないようですので、これをもちまして第二部会を終わります。皆様どうもありがとうございました。

傍聴人の方は退室ボタンを押して退室してください。

(傍聴人退室)
(午後 4 時 24 分閉会)